

エコクリティシズム研究学会

事務局便り No.3 March 2014

<http://www.ses-japan.org/>

事務局便り第3号をお届けします。今年度大会のご案内、昨年度大会報告、米アイダホ大学在外研究報告、米SF雑誌への掲載、会費納入のお願い、各種委員会情報を掲載しています。

◆2014年度第27回年次大会日時と内容の決定

8月8日(金) 15時～ ISLE 公開読書会、総会、懇親会 (ホテル北野プラザ六甲荘)
8月9日(土) 9時30分～ 研究発表、特別講演、シホ°シヅム、ワークショップ (神戸市外大ユニティ)
プログラムとレジメは7月中旬発送予定、懇親会の出欠については6月末にご案内します。

[特別講演]

講 師 巽 孝之先生 (慶應義塾大学教授、日本ポー学会会長)
演 題 「カッサンドラ・コンプレックス——予言の文学と環境批評」

[シンポジウム]

テ ー マ "Ecology, Speculative Fiction, and Ecocriticism"
司会・講師 マイケル・ゴーマン (広島市立大学)
講 師 デビッド・ファーネル (福岡大学)、中山悟視 (海上保安大学校)、原田和恵 (ワシントン大学セントルイス Ph.D. Candidate)、レスポンドント 伊藤詔子 (広島大学・名)

[研究発表]

岸野英美 (松江高専)、一谷智子 (西南学院大学)、浜本隆三 (徳島文理大学)

[ワークショップ]

司会・講師 日臺晴子 (東京海洋大学)
講 師 浅井千晶 (千里金蘭大学)、熊本早苗 (岩手県立大学)、平瀬洋子 (広島国際学院大学)、
谷岡知美 (広島修道大学)
課 題 書 *Beyond Romantic Ecocriticism: Toward Urbanatural Roosting*(Palgrave, 2012)

[ISLE 公開読書会]

気候変動や災害がテーマとなっている Summer 2013 (Vol.20 Issue 3)をとりあげます。5人の発表者がワークショップ形式で論文を紹介し、意見交換をしたいと思います。自由なご参加をお待ちしております。

◆第26回エコクリティシズム研究学会大会に参加して

2013年8月9日(金)から10日(土)にわたり、広島修道大学において第26回エコクリティシズム研究学会が開催された。筆者は2012年、松山大学での研究会に初めて参加させていただいたのをきっかけに本学会の会員となり、今回は二度目の大会参加ということになる。前回、研究会の域をはるかに凌駕する充実した内容に、大いに刺激されたことが記憶に新しい。本大会も、研究会の成熟と、学会としての新たな門出を強く印象付

一谷 智子 (西南学院大学)



ける素晴らしいものであった。

まず、第1日目、浅井千晶先生が司会を務められたワークショップ1「21世紀のエコクリティシズムの実践を読む」は、2011年に出版された *Environmental Criticism for the Twenty-First Century* を、日臺晴子、水野敦子、深井美智子、熊本早苗各先生が紹介・解説・コメントされる形式で進められた。生命体の新たな認識を促す mesh という概念の提示に始まり、啓蒙主義時代の博物学収集家に対する批判、環境詩学と英文学の起源、アメリカインディアンの自然観を共有した16世紀のフランス詩人 Du Bartas の再評価、19世紀のチカーナ作家 Ruiz de Burton の時代から続くチカーナ作家の環境正義の闘い、中国のエコシティと環境統治の問題、ニュージーランドの作家と芸術家の協同と創作に見出される環境正義に至るまで、実に多様な視点からのエコクリティシズムの実践を知る機会となった。

2日目のワークショップ2「*American Literature* のエコクリティシズム特集号（第84巻2号、2012年）をめぐって」は、大野美砂先生の司会のもと、伊藤詔子、岸野英美、塩田弘、信岡朝子各先生が担当された。アフリカ系ジャマイカ人でハーレム・ルネッサンスの中心人物 Claude McKay のジャマイカ独自の農業システム Provision Ground を基盤にした詩作品の分析、農本主義的思想をもとにした場所の概念が、フードシステムの周辺で如何に構築されているかについての議論、偏狭な地域主義に抛る従来の反原発運動へのカウンターディスコースとしての eco-cosmopolitanism を喚起した近年のドキュメンタリー映画の分析、エドガー・アラン・ポーの作品に「ポスト・ヒューマン・エコロジー」を通して提示された新しい解釈など、担当者の独自の紹介、コメントからは学ぶことが多かった。

ワークショップに引き続き、2つの研究発表が行われた。稲富百合子先生による「イタリアにおけるホーゾーンの風景論」では、ホーゾーンのイタリア体験を基にした『フレンチ・アンド・イタリアン・ノートブック』と『大理石の牧神』に描かれた風景が詳細に涉って丹念に論じられた。続いてデビッド・ファーネル先生「New Eden: Postapocalyptic Ecotopia in Atwood's *Oryx and Crake* and *The Year of the Flood*」では、アトウッドのマッドアダマス三部作から『オリクスとクレイク』と『洪水の年』が取り上げられ、バイオ産業や医療技術の発達における倫理面を問い、遺伝子工学への警鐘を鳴らすポスト・ヒューマンのエコトピアについて考察されていた。

特別講演では、金沢大学の村上清敏先生が、「ロバート・フィンチ『鯨のように』再読」と題し、ご自身が翻訳され熟知された本書を、翻訳者ならではの視点から「ネイチャーライティング」の典型であることを検証されたのち、『白鯨』の村上先生曰く「（誤解を恐れぬ）エロチックな読み」が展開され、会場を魅了した。「シェイクスピアだけでなく、下ネタが文学の核をなす」とされ、目から鱗の特別講演であった。

学会最後シンポジウム「メルヴィルと環境」は、藤江啓子先生が司会を務められ、大島由起子先生「『ピエール』の古層—ジェセフ・ブランとモーリー・ブラン」、辻祥子先生「水夫と黒人の環境—『ビリー・バッド』を中心に」、藤本幸伸先生「環境の見方を記録するイシュメル」、藤江啓子先生「『乙女たちの地獄』に見る労働と環境」の4つの発表から構成されていた。メルヴィルが生きた19世紀半ばのアメリカは、産業資本主義確立の過程にあり、環境破壊、女性や黒人の人権と労働問題が顕在化していた。それらに意識的であったメルヴィル作品群をエコクリティシズムの観点から読み解く試みは、刺激に満ち、示唆的であった。

一日目の学会終了後は、大学から場所を移して、懇親会の場が持たれたが、多くの参加者が集い、親交を深める場となったことを書き添えておく。細やかなお心配りで、会場の設営と運営、懇親会の幹事を務めて下さった広島修道大学の塩田弘先生と谷岡知美先生をはじめ、準備運営に携わって下さった本会の先生方に心からお礼を申し上げる。国家文学の枠組みを超えて、さらには学問分野の領域を超えて、多様な専攻の研究者が集うこの学会が、さらに豊かな学問的土壌を提供する場となってゆくよう期待し、報告に代えたい。

◆米アイダホ大学在外研究報告

塩田 弘 (広島修道大学)

2年に1度開催される次回の“ASLE Biennial Conference”の会場が、ここアイダホ大学に決定したそうで、ASLEのホームページにも以下のような速報が掲載されています。

Exciting news, the 2015 ASLE Biennial Conference location and tentative dates have been announced: The conference will be held at the University of Idaho in Moscow, ID. Tentative dates are June 23-27, 2015, so mark your calendars and hope to see you there! (<http://www.asle.org/site/news/>)

自然に囲まれたアイダホ大学は、ASLEの開催にとってもふさわしい場所です。キャンパスから徒歩圏内には複数のホテルがありますが、参加予定の方は出来るだけホテルの予約は早めにしていただくと良いと思います。安いモーテルから高級ホテルまでありますが、Idaho Inn (<http://www.idahoinn.com/>)が最もキャンパスに隣接していて、値頃な宿泊料(一泊60ドル程度)なのでおすすめです。私も、こちらでアパートを決める前に数日宿泊しました。



このような大きなイベントの他にも、アイダホ大学ではErin James先生を中心に、Ecocriticism Reading Groupのミーティングが毎月開催されています。メンバーはアイダホ大学の先生方を中心に、近隣の複数の大学の先生方や一部の意欲的な大学院生も参加し、毎回15名以上の参加者があります。文学の他にも、映像学やメディア学など様々な専門家、そしてフランスや中国など多国籍の参加者が課題図書について討論します。それぞれの専門的視点から活発な議論が2時間続くレベルの高い読書会で、その内容を容易にまとめることは私には出来ませんが、9月からの課題図書をここに紹介させていただきます。

9月・Oppermann, Serpil. *International Ecocriticism: Young Voices* (forthcoming from Bucknell UP)

・Slovic, Scott. *Nature and Environment* (Salem Press, 2012)

10月・Latour, Bruno. “The Puzzling Face of a Secular Gaia.” *Facing Gaia: Six Lectures on the Political Theology of Nature* (forthcoming)

11月・Barad, Karen. *Meeting the Universe Halfway: Quantum Physics and the Entanglement of Matter and Meaning* (Duke UP, 2007)

・Barad, Karen. “Posthumanist Performativity: Toward an Understanding of How Matter Comes to Matter.” *Chicago Journals*, Vol.28, No.3 (2003)

このように、文学・社会科学・自然科学におよぶ学際的な課題図書が並んでいますが、次回の12月のミーティングでは動物論を扱うとのことで、Anna L. Petersonの*Being Animal: Beasts and Boundaries in Nature Ethics* (Columbia UP, 2013)が課題図書の候補にあがっています。



◆米SF雑誌Locusに本会講演会が掲載される

アメリカで発行されている国際的なSF月刊誌Locus 2014年1月号 (Vol.72, No.1) が、広島修道大学他で開催された第2回国際SFシンポジウムについて、参加者の1人Pat Murphyのレポートによって詳報しています。この中で、本学会主催のパオロ・バチガルピ氏講演会・シンポジウム終了後、広島・酔いで開かれた懇親会の写真が掲載されました。



ホームページ委員よりお願い

ホームページ上に掲載する以下の記事を常時受け付けています。皆様のご協力で内容を充実していきたいと思っておりますので、よろしくごお願い申し上げます。宛先：三重野佳子 mieno@nm.beppu-u.ac.jp

- (1) 「旅する会員」ページ：皆様の旅先や研修先などで撮られた写真を記事と一緒に郵送してください。ページに載せる形に大体整えてワードファイルあるいはPDFファイルでお送りください。
- (2) 「エコクリティシズムテーマの概要」で、新たな解説を準備中です。現在のテーマの他にも、ご提案がありましたら、郵送してください。出版委員会で掲載を検討します。
- (3) 事務局宛に寄せられた会員の皆様の出版情報を News ページで研究情報として掲載します。

会費納入のお願い

会費納入のお願いと振込用紙を同封しています。年会費4000円のご納入を4月末日までにお願ひします。学会と出版企画委員会にご寄附いただける場合は、その旨通信欄にお書きの上、どうぞよろしくお願ひいたします。振込先：エコクリティシズム研究学会 口座番号 01380-4-96525

住所、ご所属、メールアドレスの変更届のお願い

この春、住所やメールアドレス・所属等に変更があった方は、平瀬洋子宛て (danbara@mpd.biglobe.ne.jp) に必ずご連絡下さい。

事務局からのお願い

会員の出版（単著・共著）・書評・学会などの情報は、ご本人の連絡に基づき研究情報として会員にメーリングリストとHPでお知らせしますので、水野敦子宛て (mizuno@sanyo.ac.jp) にご連絡下さい。

出版委員会よりご報告

出版企画について出版社との交渉が進行中です。熊本さん、信岡さん他関係者のご尽力に感謝します。
[企画の趣旨と刊行概要]

2012年度のエコクリティシズム研究学会のシンポジウム「災害・文学・メディア」での議論を発展させ、文学が大地震と、世界で初めての規模の原発事故という複合大災害をどう捉え、どのように表象することができるか、その表象は他の表象メディアとどう関わるのかを考察する。本書では復興支援のオハイオ大学との連携や、原爆文学研究会会員の協力も得て、原爆と原発事故と文学、災害と文学に関わる日米の言説の応答と証言を、エコクリティシズムの新しい領域として提示するべく企画する。

書名：『災害と文学—日米の応答と証言—』（仮）

編著者：熊本早苗／信岡朝子

執筆者：伊藤詔子／小川春美（岩手県立大学）／ゴーマン、マイケル／トンプソン、クリストファー（オハイオ大学）／中垣恒太郎／中野和典（福岡大学、原爆文学研究会）／松永京子（50音順）

体裁：46判・縦組み・丸背上製・カバー付（2色刷）刊行予定：2015年3月末日、英宝社。

編集委員会よりお詫び

『エコクリティシズム・レビュー』No6に以下の誤植がありました。訂正し、お詫びいたします。

「p.85 1.1（誤）野田健一 →（正）野田研一」

☆事務局より新入会員のご紹介☆（50音順）

古志湊子氏（元松山大学教員）、中村善雄氏（ノートルダム清心女子大学）

~~~~~  
2014年3月10日 エコクリティシズム研究学会事務局発行

エコクリティシズム研究学会 代表 伊藤 詔子

事務局 〒738-8504 広島県廿日市市佐方本町1-1 山陽女子短期大学 水野敦子研究室 [mizuno@sanyo.ac.jp](mailto:mizuno@sanyo.ac.jp)

〒739-0321 広島市安芸区中野6-20-1 広島国際学院大学 平瀬洋子研究室 [danbara@mpd.biglob.ne.jp](mailto:danbara@mpd.biglob.ne.jp)